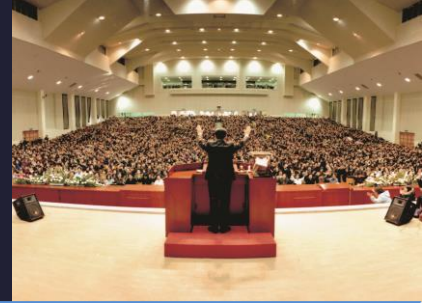


恵みと真理のニュース



2019年07月の三次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net



【証】

私は御言葉と聖霊で満たされて苦難を成し遂げられるようにしてくださる神様を賛美します

ここドンタン新都市の恵と真理教会で御言葉と聖霊で充満な信仰生活をするように摂理してくださった神様に感謝と賛美を捧げます。

私はドンタンに引っ越しをする前にある都市のさびた住宅家で住みました。小学校と中学校は同じアパート内であってその周りに小さいマンションが多い地域でした。そこで小学校を通過していた娘が学校で勉強もできて活動に積極的だったので先生から注目を集めて友達の親からもたくさん褒められました。このような娘によって私も学校で熱心に親の活動をして地域社会で様々な活動をしました。そうしながらよその目にうらやましく過ごしました。

同じアパートで住んで父母活動を一緒にしている方が私を熱心に伝道しました。しかし、私は世ことをする楽しさで目を奪われ高慢になってイエス様と福音について関心がなかったです。“自分なりに正直で真面目に生きて他の人に害を与えなく生きるなら、うまく生きるのではないのか”と思いつつながら生きてきました。ところが、彼は諦めなくて私のため祈りながらたまに伝道しました。その方の祈りを神様が聞いてくださったのか、私の心が開かれてその方が通う教会を通うようになりました。

その教会は家庭礼拝をととても大事に思う教会で、職分と制度などが普通の教会と違いました。私は神様の栄光と主の喜びを求める教会生活ではなくて私の満足と楽しさを求める意識がもっと大きかったです。多くの年寄りを仕える職分を担って年寄りから褒められその方の愛をたくさん受けるのが好きでもっと熱心に奉仕しました。ところが時間が経っても聖書の御言葉に対する悟りもなく救いと天国に対する確信も出来ませんでした。

そうするうちに旦那がドンタン新都市の内に複合マンションの分譲を受け急に引っ越しをしました。以前、

生活していた所ではとても楽しく過ごしました。ところが引っ越ししてからは一人ぼちになりました。新しい生活環境にも適応しなく寂しくて毎日のように以前住んでいた所を歩き回りました。

そのように一年が過ぎて教会を通うのが大変になり、村の周辺の教会を探る中で息子の友達のお母さんの紹介で家の近くにある教会に通うようになりました。この教会でも依然と同じく弱くて足りない信仰で教会生活をしました。ここで引っ越ししてまもなく少ない聖徒が奉仕と教会活動に積極的である重職を任された方から叱られました。その方から私が高慢に見えたようです。その方が他の聖徒と共に私をいじめをして更に異端に属した教会の出身だと噂をたてました。今振り返ってみるとサタンが弱い私を試したと思います。私はその当時異端すらわからない時でした。“互いに愛しなさい。”という御言葉に“アーメン”で答えた人がどうして私をいじめするのかいくら考えても理解できませんでした。

教会に行っても心が平安にならなくて礼拝の喜びもなかった時、恵と真理教会に通う隣に家に住んでいる方から導かれて恵と真理教会のドンタン聖殿で新しい心で主を仕えながらも熱心に信仰生活をするようになりました。なぜ、神様が我が教会でイエス様を信じ教会を仕える信仰生活をするように導いてくださったのか知るようになり、神様の恵みに感謝を捧げて神様だけ見上げ、神様の栄光だけを考えて生きるようになりました。

神様は私を憐れんでくださって恵と真理教会に属した聖徒になさせて極めて恵み豊かな教会長の牧師説教を聞かせてくださいました。心が弱くて不安定な子供のような私を見て祈ってください、いつも主の愛で見守ってください。教役者と区域長に出会わせるようにしてくださいました。私はイエス様を信じ神様を仕える目的が永遠な命と天国であることを確実に知ようになり、御言葉の恵みを愛し教会に行く足がいつも軽くて楽しくなりました。

世の事よりも礼拝を捧げることが最優先に思うようになりました。3年間すべての礼拝と

祈り会に休まずに出席して礼拝中心、御言葉中心で生活しました。神様は私を御言葉と聖霊で満たして下さり右にも左にも偏らない堅固な信仰を持つようにして

くださいました。私を救ってくださった神様の恵みと愛に感激して私の喜びではなくて主の喜びを考えながらただ、神様の栄光のため仕え奉仕するようになりました。私の弱さを知っておられる神様が私に大きい苦難を受ける前にまず、恵と真理の御言葉で私を強くしてくださいました。

私は4年前、乳がんの診断を受けて乳を切除する手術を受けました。6回の抗がん剤治療を受けてそのほかにも多くの放射線治療を受けました。なぜ、神様は私を神様と神様の約束に対して完全に信頼する堅固な信仰を与えたのか悟って病を患っても神様に感謝捧げました。様々な検査と手術の治療のすべての過程の中で神様が御言葉を通して私と共におられ聖霊で大きい慰めを与えてくださり勝勇気を与えてくださいました。そして心配したり、恐れませんでした。

今日も主は平安で私を見守ってください、私の考えがただ主だけ見上げるようになさいます。大変で疲れる時私の手を握って立ち上がるように道いびいてくださるのを感じます。私はまだ、完治判定を受けてなくて続けて追跡検査を受けています。神様が私と共におられるので少しも恐れません。神様が下さる力で今日も区域長の職分を担って女性奉仕連合会で属して礼拝案内などの奉仕を熱心に行っています。

どんなことでも、思い煩うのはやめなさい。何事につけ、感謝を込めて祈りと願いをささげ、求めているものを神に打ち明けなさい。そうすれば、あらゆる人知を超える神の平和が、あなたがたの心と考えとをキリスト・イエスによって守るでしょう。(フィリピの手紙4:6,7)

神様に祈って恵と真理賛美歌 357番で神様に賛美を捧げる私の心に下さる平安がいっぱいになり私の弱い体にも全能なる神様の治療の手が望むのが感じられます。私を神様の子供として再び生まれ変わるようにしてください、苦難を勝ち抜ける力と慰めを下さる神様を賛美します。神様の恵みで健康になってもっと熱心に主のことに献身し奉仕するのを願います。“いかに幸いなことか／神に逆らう者の計らいに従って歩まず／罪ある者の道にとどまらず／傲慢な者と共に座らず 主の教えを愛し／その教えを昼も夜も口ずさむ人。(詩編1:1,2) 私は真実に福ある人です。



【信仰コラム】

このようなお祈り (5)

“...彼らが祈り終えると、その集まっていた場所が揺れ動き、一同は聖霊に満たされて、大胆に 神の言を語り出した” (使徒言行録4:23~31)

ペテロとヨハネがお祈りしようと聖殿に行く途中に美しいの門の前に座って袖をひく足が不自由な者を見てペテロが“私達を見なさい。”、“金銀はわたしには無い。しかし、わたしにあるものをあげよう。ナザレ人イエス・キリストの名によって歩きなさい。”としました。そして足が不自由な者の右の手を握って起すと彼が直ちに立ち歩いて走りながら神様を賛美しながら聖殿の中に入りました。その姿を見た人々が驚いて奇異に扱いました。ソロモンの廊に集まった人々にペテロが“イエスの名が、それを信じる信仰のゆえに、あなたがたのいま見て知っているこの人、強くしたのであり、イエスによる信仰が、彼をあなたがた一同の前で、このとおり完全にいやしたのである。”としました。続いて悔い改めてイエスキリストを信じて罪の許しを得ることを促すと信じる人が多くて男の数だけで約5千人になりました。

使徒達が説教しているという報告を聞いた聖殿の総責任者が祭司長とサドカイ人を連れて現場に来て、ペテロとヨハネを逮捕し獄に閉じ込めました。翌日、彼らはサンヘドリン公会を開いてこの事件に対してペテロとヨハネを尋問しました。ペテロが聖霊が充満でこの人が元気になるってみんなの前に立っているのは、ひとえに、あなたがたが十字架につけて殺したのを、

神が死人の中からよみがえらせたナザレ人イエス・キリストの御名によるのである。この人による以外に救はない。わたしたちを救う名は、これを別にして、天下のだれにも与えられていないからである。”と答えました。伝道活動を諦めさせる公会員達の命令に対してペテロとヨハネが全面拒否したら、別に処罰する方法を探ることができなくて、より強力な脅威をした後に放してあげました。ペテロとヨハネの言葉を聞いた使徒達と聖徒達が直ちに取って行動は叫んで祈ることでした。

使徒達と聖徒達が心を合わせて求めた内容を分類すると三つです。一、“主よ、いま彼らの脅迫に目をとめ”とお祈りしました。彼らの脅迫とはサンヘドリン公会と結託したユダヤ人達の脅威を言います。強大な公権力を持った者達と彼らと結託した群れの脅威があると福音伝道に支障をもたらします。殉教を覚悟した使徒達なので彼らの脅威を恐れることはなかったが、伝道活動には深刻な被害になるのでその脅威に対して神様が適切な措置をしてくださるよう求めました。聖徒達は自分が直面した脅威だけではなく、他の聖徒達が直面した脅威に対してもお祈りすべきです。他国の弾圧を受ける教会と聖徒のために、生命の脅威を受けている北朝鮮のキリスト人のためにお祈りすべきです。神様は脅威を受ける教会と聖徒達のお祈りをお聞きなさり保護の手を伸ばしてください。

二、“思い切って大胆に御言葉を語らせて下さい”とお祈りしました。伝道するには知恵と熱心と大胆が必要です。聖霊充満になると大胆になります。福音を伝えることは全てのキリスト人がすべきの聖なる使命です。従って私達は“思い切って大胆に御言葉を語らせて下さい”とお祈りすべきです。三、“み手を伸ばして癒しをなし、聖なる僕イエスの名によって、しるしと奇跡とを行わせて下さい”とお祈りしました。イエス様の御名で起せる神癒、しるし、奇跡は福音を伝えるに役立ちます。このような事事は神様の愛と能力を目撃させて体験させてくれるからです。従って、イエス様が弟子達に病んだ者のためにお祈りして、癒しを得させるよう言いつけられました。今日も教会と信者達が神癒としるしと奇跡が多く起きようお祈りすべきです。

今も神様は私達が使徒達のようにお祈りすることを喜んでお聞きなさい応答してください。主よ、いま、彼らの脅迫に目をとめ、僕たちに、思い切って大胆に御言葉を語らせて下さい。そしてみ手を伸ばして癒しをなし、聖なる僕イエスの名によって、しるしと奇跡とを行わせて下さい。”一人でお祈りする時も、二人以上が集まってお祈りする時もこのようにお祈りしてください。“あなたがたは、求めないから得られないのだ”、“わたしはエジプトの国から、あなたをつれ出したあなたの神、主である。あなたの口を広くあけよ、わたしはそれを満たそう”という神様の御言葉を肝に銘じてください。

えることは全てのキリスト人がすべきの聖なる使命です。従って私達は“思い切って大胆に御言葉を語らせて下さい”とお祈りすべきです。

三、“み手を伸ばして癒しをなし、聖なる僕イエスの名によって、しるしと奇跡とを行わせて下さい”とお祈りしました。イエス様の御名で起せる神癒、しるし、奇跡は福音を伝えるに役立ちます。このような事事は神様の愛と能力を目撃させて体験させてくれるからです。従って、イエス様が弟子達に病んだ者のためにお祈りして、癒しを得させるよう言いつけられました。今日も教会と信者達が神癒としるしと奇跡が多く起きようお祈りすべきです。

今も神様は私達が使徒達のようにお祈りすることを喜んでお聞きなさい応答してください。主よ、いま、彼らの脅迫に目をとめ、僕たちに、思い切って大胆に御言葉を語らせて下さい。そしてみ手を伸ばして癒しをなし、聖なる僕イエスの名によって、しるしと奇跡とを行わせて下さい。”一人でお祈りする時も、二人以上が集まってお祈りする時もこのようにお祈りしてください。“あなたがたは、求めないから得られないのだ”、“わたしはエジプトの国から、あなたをつれ出したあなたの神、主である。あなたの口を広くあけよ、わたしはそれを満たそう”という神様の御言葉を肝に銘じてください。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム『緑の牧場、清い川』本の語り中」

風波によって聴かれる霊的なメッセージ



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

イエスが湖畔でいろいろの比喻を連続的におっしゃってから、その意味を解いて説明しました。いつのまにか日が暮れていました。イエスが弟子たちに、私たちが湖の向こうに渡って行こうとしました。船が陸を立ち離れ際に、イエスは、船の後ろで眠っていました。その時でした。激しい突風が起り、波が舟の中に打ち込んできて、舟に満ちそうになった。波がぶつかって船に水が入って一杯になりました。ところが、イエス自身は、舟の後の方でまくらをして、眠っておられた。そこで、弟子たちはイエスをおこして、「先生、わたしどもがおぼれ死んでも、おかまいにならないのですか」と言った。イエスは起きあがって、しかし、イエスが風と波をしっかりと責めました。

「海にむかって、「静まれ、黙れ」と言われると、風はやんで、大なぎになった」波が非常に穏やかになりました。イエスは弟子たちに言われた、「どうしてこんなに怖いのか？信仰が少ない者たちよ、あなたがたはどうして信仰がないのかあなたの信仰はどこにあるのか？」としました。弟子たちはひどく恐れて互いに言った「いったい、この方はだれだろう。風も海も従わせるとは」としました。この事件の記録は、マタイ、マルコ、ルカのすべての方が記録しています。この記録を総合して、当時の状況を説明しました。今日はこの事件が、私たちに聞かせてくれる霊的なメッセージを見てみましょう。

第一は、イエスと一緒に船に乗って行く中でも激しい波風が発生する場合があるというメッセージです。

誰でもイエス・キリストを受け入れれば、主と同行し、主の言葉を従って生きることを励みます。それゆえ、以前に知らなかった霊的な喜びと平安と慰めを体験します。期待と希望を持ち、肯定的で、積極的に思考と態度を持ちます。いろいろの祈りの答えを受けます。主を仕えて、以前に感じて見られなかったやりがいを感じます。このような変化と体験は信仰生活を元気になるります。福音を伝えるのに熱心と大胆を持つようになります。しかし、時には願わない苦痛と損失を受ける状況になることもあります。このような時には霊に混乱が発生します。私が主を信じて愛して仕えて生きていくのにどうしてこのような問題に直面しているのか。本文の事件は、これらの質問に対する答えになります。弟子たちは、イエスと同行し、今、イエスと一緒にいます。それでも怖い波風に会って戦うことになりました。誰も常に順風に帆の船のように人生を生きて行くのを望んでいます。しかし、このような期待の通りに、ならないことを知っています。皆さんに苦痛と困難があれば不思議なことに思わないで、まだ私はこの世に住んでいるんだと思います。「これらのことをあなたがたに話したのは、わたしにあって平安を得るためである。あなたがたは、この世ではなやみがある。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている」(ヨハネによる福音書 16:33)とされた方がイエス様です。

第二には、主の御旨の通り生きていく中でも波風に会ったと、恐れたり、あまりにも心配せずに強く大胆に対処しなさいというメッセージです。

私たちが経験することになる波風を大きく二つに分けることができます。その中の一つは、神の御旨に逆らったので、近寄って来る風です。他の一つは、神の御旨に従っても来る風です。イエスの弟子たちが受けた波風が、これらのことです。ガリラヤ湖は長さが21キロであり、その幅は最大値が13キロです。地中海よりも213メートル低いところにあり、水深が61メートルほどの巨大な湖です。塩気がない淡水湖であるが、その規模は非常に巨大で、ガリラヤの海とも呼ばれます。特異な地形特性のため、海面の温度が急上昇して急に風が吹いて大きな波を起こすしたりしました。イエスの弟子たちは、イエスが指示される言葉に従って行ったので、彼らの心は楽しくて平安でした。ところが、途中でこのような大きな波風が追って来ました。弟子たちはこのことを通じて、主の御旨に従って行うとき、波風は恐れず大胆に対処するように教訓を得ました。難しいことに会ったとき、私たちは何よりも、自分が神の御旨にふさわしく行っているかを探して見なければなりません。ローマ人への手紙 12章 2節に記録されるのを「あなたがたは、この世と妥協してはならない。むしろ、心を新たにすることによって、造りかえられ、何が神の御旨であるか、何が善であるかを、わきまえ知るべきである」としました。あなたが神の御旨に従って生きている以上に、人生の海を航海中に波風に会っても恐れず大胆に対処してください。

第三には、私たちの信仰をいつも主の言葉に置くというメッセージです。

イエスは、弟子たちに向かって「あなたがたの信仰はどこにあるのか」と非難されました。弟子たちが彼らの信仰を、主の御言葉に置かず当面の現実の状況に置いたからです。本文の事件の前に、弟子たちは、主の言葉に信仰を置かないと教訓を受けたことがあります。ある日の朝でした。漁師ペテロが夜通し網を投げたが、一匹の魚も取らないまま空の船で帰ってきました。その人がイエスの言葉を聞きたいので、ガリラヤ湖畔に集まってきました。いつの間にイエスがペテロの空いた船に上りました。そしてペテロに船を陸から少し離すのをいわれました。言葉を終えたイエスがペテロに予想外の指示をしました。「深いところに行つて、網を降り魚を取りなさい。」これは漁師の経験と常識に完全に合わないことです。ところが、驚くべきなのに、ペテロが答えました「先生、わたしたちは夜通し働きましたが、何も取れませんでした。しかし、お言葉ですから、網をおろしてみましよう」としました。そして船を漕いで深いところに行きました。ペテロは、網を投げた瞬間驚くべきことが起こりました。網が破れるほどの魚がたくさん取れました。ペテロは他の船の同僚に助けてくれるように呼びました。彼らが来て、魚を二船に一杯に船が沈む程度になりました。ペテロをはじめ弟子たちは、このように素晴らしい経験を持ちました。それでも今日の本文にみると、「私たちが湖の向こうに渡って行こう」と言われた主の言葉に自分の信念を置かなかつたことを示しています。皆さんは波風の中にも主の言葉を強く握って大胆に行うようにしてください。

第四は、波風に向かって信仰を活用するようメッセージです。

「あなたがたの信仰はどこにあるのか？」という質問には、「あなたがたの信仰をなぜ活用していないのか？」と言う責める非難の意があります。「一体あなたの信仰をどこに置いているのか、なぜ信仰を現実の問題に適用させないのか？」という主の戒めを受けないようにする必要があります。私は信仰がとても少ないので、活用ができずと言う人に、イエスはこのように言われます。「あなたがたの信仰が足りないからである。よく言い聞かせておくれ、もし、からし種一粒ほどの信仰があるなら、この山にむかって『ここからあそこに移れ』と言えば、移るであろう。このように、あなたがたにできない事は、何もないであろう」(マタイによる福音書 17:20)。からしは、非常に小さいが、これを地に植えると、約3メートルから4メートルまでの大きな木に成長します。どんなに小さな種であっても、その中に生命力が出ることが出来る条件を作ってくれば育ちます。信仰が少ないとするのではなく信仰が働くように活用する必要があります。信仰を思いと言葉と行動に活用しなければなりません。信仰が行いと共にはたらき、その行いによって信仰が全うされます。(ヤコブの手紙 2:22)

第五は、主に仕え生きて経験される波風は、神への体験の深さを加えてくれるというメッセージです。

イエスは弟子たちを責めながらも、まっすぐにそれら怖がらず問題を解決しました。弟子たちは、イエスの愛を深く感じたのです。主は風波に向かって、「黙れ、静かせよ」と叱りました。すると、その驚異的な嵐怒涛が静かになりました。神の力がなければこのようなことができないという事実を確実に示して光景です。そして、弟子たちは「いったい、この方はだれだろう。風も海も従わせるとは」としました。彼らは主の力をより深く体験しました。主の御旨は必ず成就されるという事実の体験の深く感じるようになりました。神を信じているいろいろの波風を通して神の品性について様々な深い体験を持っている人は、幸いな人です。여섯째는, 주님을 모시고 살면서 겪게 되는 풍파는 하나님에 대한 경외심을 더하게 한다는 메시지입니다.

第六は、主に仕え生きて経験される波風は、神への畏敬の心をより深くするというメッセージです。

イエス波風に向かって責めるのを「黙れ、静かなさい。」すると穏かになって見えた弟子たちは、ひどく恐れて奇異に考えました。これは恐怖の感情ではなく、不思議と畏敬の感情です。弟子たち波風を見て恐れていたのは、恐怖心でした。ところが、イエスは波風を責め穏やかさせたことを見て恐れているのは、人間が神に向かって持つようになる敬虔な恐れ、畏敬の心です。皆さんに来る風波によって、神への畏敬の心が加えられるように願います。

あなたは波風に直面したときに、今まで説明したメッセージを、考えながら十分に対処してください。そして風波によって、神の愛と力と神実に対してあらわれる体験の深さが加えられるのを願っております。